（様式3）　　平成　**24**　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1276000120		
法人名	有限会社　スマイル		
事業所名	グループホーム太陽		
所在地	千葉県山武市白幡702-2		
自己評価作成日	平成24年12月17日	評価結果市町村受理日	平成25年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5－1－33－602
訪問調査日	平成25年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域の核となるグループホーム作りを目的としています。現在、老人会との交流や地域の催事への参加、地元商店との連携による商品の購入や協力など日々の生活の中で地域との交流を常に考え行動しています。 より良いサービスの為、職員のスキルアップと認知症の理解については職場研修・外部研修などに力を入れています。職員の活気がある職場は入居者さんの満足度も高いと思います。認知症実践者研修にはすべての職員が受講できるように環境を整えています。全ての職員が認知症介護のプロになれるよう援助し、入居者さんの意思や思いをできるだけ多く表現できる環境つくりに全職員が協力することを目標としています。グループホーム太陽の介護理念「歳をとってよかったと思える場所がここにあります」という思いを常に問い直し、発信しています。グループホームとしては規模も大きくなく、施設自体に特色はありません。しかし、人間が生きていく上で一番大切な”自立”を応援し、一番身近にいる職員の意欲が高いことが一番アピールしたい点です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

1.　建物はホーム専用に建てられた平屋建てで、居室や浴室はそれほど広くはありませんが、居間兼食堂は広くゆったりとしていて、思い思いの場所で寛いで過ごせるようになっており、天上に煙出し用の天窓が3箇所設けられているので、全体的に明るく、清潔感があります。
2.　種々の催し物に参加したり、ピアノ演奏やフラダンスのボランティアに来てもらったり、畑で取れた野菜を持ってきてくれる人がいたりするだけでなく、庭で行う夏祭りには、近所の人や子ども達を呼んで娯楽の場を提供する等、地域との交流を積極的に進めています。
3.　各種体操、調理手伝い、室内装飾のための貼り絵作り等、利用者の好みや特性にあわせいろいろな作業をしたり、外出する機会を設け、生活に変化をつけるよう精一杯の工夫をしています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	来客者には出来るだけ理解できるよう玄関に「歳をとってよかったと思える場所がここにあります」という経営理念を掲げている。新規の方にはとくにこの言葉を説明し、職員には全員がそれぞれの理解に基づく行動をするように指導している。	理念そのものは自己評価に記載のとおりですが、8項目からなるホームの運営方針に地域との交流促進を掲げています。実際に、近隣との共同作業、老人会での講演、夏祭りでの娯楽の提供等積極的に外に出て、地域で認められる存在となっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元老人会に入居者は登録してもらっている。催事や活動に一緒に参加できるよう職員が補佐しながら行い、地元の人間関係を継続できる素地を作っている。また、町内会や地元業者との付き合いを入居者・職員が一緒になって行っている。	敬老会等各種イベントへの参加、ピアノ演奏やフラダンスのボランティアの毎月の来訪、畑で取れた野菜を持参してくれる人の存在、認知症の講演や道路整備の共同作業を行う、家族及び近所の人や子ども達を呼んで夏祭りを行う等、地域との交流を積極的に進めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者がキャラバンメイトに登録し、老人会の催事などで年2回以上「認知症の理解」について講演している。また、町内会などで相談されることもあり、出来る限り情報伝達を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は2カ月に一度必ず行われており、家族代表、行政、近隣、老人会、職員の参加で行われ必ず入居者の目の届く場所で行なう。催事予定や反省、防災訓練の内容検討などが行われ意見交換の場所となっている。	会議は、外部に開かれた運営を行うべく、地域密着型サービスを行う施設に義務付けられていますが、当ホームでは既に早くからその趣旨を踏まえた開催・運営を続けてきており、サービス向上へのヒントを得ています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	山武市ではGH連絡会が活発に行われていて、常に相談ができる状態にある。また、地域包括センターとの係わりも増え、一緒に研修に参加したりしている。	市の担当者は年6回開催の運営推進会議の他、年13～4回開催のグループホーム連絡会・研修会にも地域包括支援センターと共に出席しているのでお互いに親密です。また、取扱い困難な人をホームにスムーズに受け入れ、行政から頼られる存在でもあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠をしないことはホームの規約に掲げている。また、管理者が専門研修まで受講しており、日々の話しや勉強会にて再確認できる体制がある。今後職員全員が受講できるよう環境を整備している。	身体拘束についてのマニュアルを備え、毎月の勉強会において職員への研修も行っています。つなぎ服を使用している例もありますが、感染症を防ぐ為にやむを得ず、家族の同取得等必要な手続きを経ています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	常にこの介護に対する意味を確認するようにしている。入居者本位の考え方を熟知すれば、作業優先の為の拘束はあり得ないことで職員同士注意しあえる環境を作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場勉強会にて理解を深める研修を行っている。利用者の尊厳に対する考えを深めることで、権利擁護の考えを自分のこととして理解し、支援できるよう毎回検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族との面接は時間をかけ、入所に至らなくても相談・支援をするようにしている。入所に際しては必ず体験入所を設けて頂き、入所後もご家族のフォローができる体制作りをし、契約締結に際しては必ず読みあげて内容を把握できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議にてご意見を伺うほか、訪問時には入居者・家族双方立会にて今の生活についてや要望などをきく機会を作っている。具体的に反映させることのできる事（催事への要望）等は即時反映させている。	利用者については日頃のケアの中で感じ取る他、家族来訪時に家族と一緒に意見や要望を聞くようにしています。加えて、年2回イベントの後で家族会を開き、気楽に率直な意見を交わせる雰囲気を作っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・ケア会議・勉強会など職員が討論できる場所の提供行っている。意見はBS法を用いて遮ることなく、今感じていることや要望をお仕事として発信できる訓練を含め討論し、反映できる事は実現できるようにしている。	各種ミーティングの場で職員の意見を聞くようにしています。また、最近主任を任命し、主任を通じる意見の言いやすいルートも創りました。更に、「○○さんの取扱説明書」なるものを利用者の気持ちになって作成するよう職員に課したところ、期待もしていなかったほど沢山の貴重な意見が出ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職時に自分の働きたい希望日数や経験値、意欲などを聞き取り、認知症ケアに取り組みたい気持ちの有る方を就労するようにしている。また、職員の意欲などを正当に判断できるよう常に経営者に職員の様子などの情報提供をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への取り組みは常に行っている。現在実践者研修へは11人中8名が受講済である。ミーティングや勉強会などで実践に繋がると思われる課題を提示し、外部研修への意欲向上をはかっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山武市GH連絡会にて情報を共有し、合同開催の勉強会などで職員同士の連絡や情報交換ができる環境づくりをしている。また、互いの施設を訪問しあったり、催事協力などの体制作りが出来ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接にて顔見知りになる努力と心を開いて現状を話せる環境作りに力を入れている。生活歴などは十分に把握できるようにし、現在の生活を支えてくれている人たちからも情報の提供をお願いし、入所後も関係が途切れない様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族との面談2～3回行うことにしている。現在の問題や今後入所してからの関係つくりを一緒に考え、訪問回数や入所後の関わり方など具体的に示せるように話しを進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	即入所するということは避けている。まず、体験入所をして、今の生活を維持できるので有れば慣れた環境で過ごすことが利用者にとって有意義であることを説明し、「今」何が必要か冷静にご家族が判断できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	井戸端会議ができる人間関係作りを求めている。回想法などにより、昔の話しを聞いたり、毎日の生活で洗濯物たたみや野菜切り・お掃除などを一緒に行い、歌や踊りを行い一緒に生活をして楽しむ環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護の現場にいる職員からのお話しがご家族にとっても血の通った情報となっている。ご家族も職員の名前を覚えていて、電話などで○○さんだねと声を聞いただけで解る環境がある。職員からご家族の要望聞くことも多い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく友人・知人の訪問を奨めている。入所時に説明し、いつでも来られる環境を用意している。また、催事などに招待して一緒に楽しんで頂けるようにしている。	入所前から親しく交際していた親戚、友人、知人たちと入所後も行き来できるように、気軽に訪問できる雰囲気作りに努めており、2日に1度程度そうした人達の訪問があります。また、馴染みの医師での受診を最優先としています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活歴などが似た方を同じテーブルについて頂き食事の際やおしゃべりの際に職員が間に入り、話しがスムーズに行くように支援している。同時代の話題などを提供することで一体感をもってもらう努力をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も催事などへは参加を呼び掛けている。電話での連絡は常にオープンにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の考え方を常に念頭におきサービス計画を立てている。職員が入居者の立場にたって思いを語ることをケア会議などで取り入れている。	職員はセンター方式の考え方を常に念頭におき、利用者のさりげない話や行動等から情報を得たり、家族の要望や意向を念頭に利用者とコミュニケーションを図る中で、一人ひとりの意向をくみ取るよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にお聞きした事以外にご家族から職員へ情報提供されたことは日誌に書き込むことと共にケア会議や報告などにより把握し、情報を共有できるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、モニタリングを行い、心身状態、環境などの現状を確認するようにしている。また、ケア会議にて発表し、職員からの意見を反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは介護職と介護支援専門員の双方で行い、訪問時に課題や現状を伝え、意見を反映できるようにし、現場からの意見を基に医療のアドバイスなどを頂きご家族と相談して介護計画を作成している。	介護計画はセンター方式のアセスメントを基に、本人の希望や家族との話し合いを重視し、関係機関の意見も反映しながら作成し、3カ月に一度見直しています。月1回モニタリングを実施し、ケア会議で職員の意見・情報を共有し検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア会議にて日々の記録の他ヒオヤリハットやモニタリングから出てくる課題を分析し、職員同士で情報の共有を図っている。特に入居者担当をきめ、会議記録を担当者が書くようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス計画を検討する際にご家族の意見や要望を逐次聞くこととしている。個別対応が一番大事であることを職員も理解している。その為担当者を決め、本人の意思の確認をきめ細かく行うことによりサービスの多様性を心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加や社協の催事その他地元主催の催事には積極的に出席し、ご本人参加意欲が自発的に発揮できる場所を常に探して提供することにしている。地元でのご本人の活動を継続できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人なじみ医師への受診を最優先にしている。嘱託医によるに2カ月に一度の往診により健康管理を行い変化時には連携病院への入院できる環境を整えている。	ホームでは協力医療機関との連携で2カ月に一度内科医の訪問診療があり、さらに管理者が医師のもとにカルテを持参するカルテ受診も受けています。歯科は利用者に合わせ、耳鼻科は3カ月に一度訪問診療が受けられます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場に看護視覚を有するものはいないが嘱託医への連絡を緊密にして、休診日でも携帯による受付が出来るようになっている。また、相談事項は往診時や受診時に受け付けやDrに気軽に聞けるように常日頃連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	嘱託医の2カ月に一回の往診により病気の早期発見につとめ、連携協力病院を設けることにより病院に併設されている地域相談室との協力を築くことができ、早期対応ができる体制作りを常に心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にも重度化した場合の対応について話合っている。ターミナルマニュアルを作成し対応に不備がないように日頃より準備をしている。家族の気持ちは日々変化するものと捉え本人・家族の意向を一番にし馴染みの環境に支障が起こらない様に地域との連携を深め支援に取り組んでいる。	家族には入所時に重度化に関して事前に説明を行っています。終末期ケアマニュアルも整備されており、最近になり自然な形で看取りも行いました。終末期ケアを実施体験することが出来、この貴重な体験が終末期ケアに取り組む職員全体の意識向上につながっているように思われます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職職員は救急救命講座を受講している。また、二年に一度再講習をうけ実践力になるよう努めている。外部研修などに参加できる体制も整えて急変時に備えている。また、緊急連絡網の整備の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し、消防署指導の訓練にはご近隣の方の参加も頂き備えている。ご近隣より二次避難所の提供もありる。また、飲料水、食料は2週間分程度備蓄している。	火災時の避難訓練と大地震を想定した避難訓練を実施しています。スプリンクラーは義務ではないので設置していませんが、居間兼食堂の天井に煙だし用の天窓を備えているので、危険はかなり緩和されるものと考えられます。万一のための備蓄も十分です。	夜勤は1人なので、火災や地震の際の行動の手順を定め、予め頭に叩き込んでおく、できれば担当者を決めて実地訓練をしておくことが望ましいと思われます。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみやすい言葉かけが誤解されないように毎回ケア会議にて検討している。入居者は目上の方であり職員以上に人生経験の豊富な方達であることを常に再確認している。職員同士今の言葉使いなどに問題はないか話合っている。	利用者は人生の先輩であり尊重して対応するよう指導がなされており、「さん」づけで呼ぶことにより、お互いの信頼関係が自然な形で構築されています。一人ひとりの尊厳を守るため介護現場での言動に十分な配慮がみられます。記録等の重要書類は鍵をかけて保管されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる事、自ら発言できることが一番重要だと捉えている。発言できない入居者に対しても心持ちを察する努力をし、本人の願いがかなうような支援をし、常に希望や要望を聞く姿勢を作れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴は本人の意思により行う事を基本としている。職員のタイムスケジュールは優先しない。食べたい時、眠りたい時など本人の意向を最優先にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれは自己表現の手段であり、心の余裕になるため推進している。一月に一度ネイルケアをボランティアで行ってもらっている。また、一月半に一回程度地元の床屋さんに来て頂き、散髪とフェイシャルケアを行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時の食材の下ごしらえなどは毎日行われている。また、片付けも手伝ってもらっている。食事時には各テーブルに職員が付き食事内容やその他の話題の中から好みを聞き出し、楽しく食事ができる話題づくりをしている。	毎日の献立は、利用者に希望を聞き作成しています。利用者の調理に関する能力を一人ひとり引き出し、食材の買い物、準備、調理、片付け等職員と共に皆んなで役割分担し、皆が食事を楽しるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は逐次把握し、記録している。要望がある場合には好きな食材に変更したり、嚥下状態を把握し、食材の大きさの調整やトロミ剤の利用をしている。日頃、野菜切りのお手伝いなどの話題で好きな食材の把握を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは日常習慣になっている。訪問歯科を利用して口腔内の異常については常に把握できる状態がある。中々歯医者に行けなかった新入居者からは感謝の言葉を頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症のため行動手順が解らず失敗することもあるのでトイレ誘導は自分の意思で行ける環境作りを心がけている。また、オムツ使用の方にたいしても間隔を捉え、ポータブルを利用するなどして自力排便・排尿の手掛かりになる様支援している。	利用者で車いすの人、リハパン使用の人でも、日中は全員がトイレを使用しています。職員は毎日の排泄パターン表を基に気配りしながら声かけ、誘導しています。本人の希望によっては、ポータブルトイレも使用できるようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の記録をつける事で排便・排尿の把握をする。医師と相談し、薬剤・座薬などの利用には指導を受けて行い。排便・排尿間隔を捉えトイレ誘導するなどの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に沿うよう、意見を聞き一番風呂の好きな方や夕がた入りたい方など要望を見極めて対応している。毎日入りたい方にはそのように対応し、拒否のある方には自然に入浴したいと思える環境作りをしている。	入浴は原則2～3日に1回で、午後3時～6時に3、4人が入浴しています。予定した日に体調不良や拒否等で入浴出来ない時は、清拭や足浴等で臨機応変に対応したり、無理することなくタイミングを計りながら、時には職員が歌ったりその場の雰囲気に合わせ柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めずに自然入眠を心がけている。夜間数度起きてきてお話しをしたり、一緒に洗濯物をたたんだりして、無理ない環境を作り、心地よい入眠体制を作るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際にお薬の効能、副作用などを聞き、受診記録にて報告する。また、ケア会議にて再確認のため話し合い効果効能を検証している。職員は自分の担当入居者がどのような薬を飲んでいるか把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活レクは個人対応が主となるよう自分の仕事・レクであることを解るように支援している。好きなレクはおのずと解るものでそれ以外に新しい試みを常に行い気分転換や発想の転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出や外泊をはじめ、職員同行し外食したり、お茶を飲みに行ったりしている。地域の催しは必ず誰かが参加し、地域交流を深めている。昔の知人に声をかけられたりして社会参加の気持ちを再確認して頂いている。	天気の良いは、本人たちの希望を取り入れながら外気浴、日光浴を兼ねて、職員付添のもと2,3人位で外出しています。また、月1回近郊で外食をしたり、食材等ホームの買い物に一緒に行ったり、家族との外出もできるだけ積極的に支援しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことを理解している方には持って頂いているがホームが住宅街にあり商店がない。外出の際に小銭を持って頂いて、好きな物を買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	受話器は入居者の手の届くところに設置してあり、子機はコードレスになっているので座っている場所まで受話器をもっていって会話して頂いている。同窓会の連絡などはすぐに渡し、返信するものは手助けして連絡をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り付けは職員と一緒に行い自分のセンスを生かせる工夫や花を生けたり季節感のある道具を毎月変更しながら飾っている。	廊下部分がほとんど無いため、居間兼食堂は広くゆったりとしており、思い思いの場所で寛いで過ごせるようになっています。天上には煙出し用の天窓が3箇所設けられているので、全体的に明るく、清潔感があります。対面式キッチンでの調理の音やにおいで生活感、生花や壁の飾りで季節感を演出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室から出て見回せる範囲でソファや椅子などを適度な間隔に置き自分の好きな場所に座れるようにしている。 暗くならないよう適度な明かるさを保ち夜間は照明を落とすことで昼夜が解る環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に出来るだけ使い慣れた物を持ってきて下さるようお願いしている。 ホームで楽しかった時の写真や自分が中心に写っている写真やご家族の写真などを飾っている。	居室は決して広くはありませんが、クローゼットが備え付けなので整理をしやすく、ソファや箪笥等の家具を持ち込み、中には女性らしく部屋全体を非常にきれいに飾っている人もある等、思い思いの工夫を凝らしており、居心地良い雰囲気が感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉は引き戸になっており、進行の妨げにならないようにしている。トイレの扉にシールを張り解りやすくしたり、手すりを設置している。 床に物を置かないことを基本としている。		